

令和6年度 あわら市金津東小学校 学校評価書

1…よくあてはまる 2…ややあてはまる 3…あまりあてはまらない 4…まったくあてはまらない

		前期				後期				成果と課題	対応策・向上策	
		1	2	3	4	1	2	3	4			
豊かな心	児童	①自分は、毎日学校へ通うのが楽しい。	77.5	15.7	3.9	2.9	79.4	15.7	2.0	2.9	前後期ともに「あてはまる」と答えた児童が90%をこえ、スクールプランの目標を達成できている。毎週木曜日のSST活動や、授業でのペア・グループ活動で活躍の場が確保されていること、一人一人の感じ方や考え方を認め合う機会があることが結果につながったと感じている。今後も継続したい。	後期の保護者の「あまりあてはまらない」が微増したことに対して、学校で楽しく過ごしている様子が保護者に伝わる手立てを取る。例えば、学校ホームページやお便りによる発信を増やしたり、学校公開日を増やしたりすることが考えられる。さらに、児童用のタブレットを活用して、学習の様子の写真や動画を家庭で見られるようにすると、家庭での学校の話がぐんぐん学校の様子が家庭に伝わることを期待できる。
	保護者	①わが子は、学校に楽しく通っている。	73.0	25.4	1.6	0.0	69.5	28.0	2.4	0.0		
	教職員	①本校の子どもたちは、楽しく学校生活を送っている。	91.7	8.3	0.0	0.0	90.9	9.1	0.0	0.0		
豊かな心	児童	②友達や先生、地域の人に、元気よくあいさつすることができる。	71.6	23.5	2.9	2.0	66.7	22.5	9.8	1.0	毎月実施している生活チャレンジ週間の取り組みとあいさつ運動に加え、あいさつ運動ポスターを作成し校内に掲示したが、後期は「あてはまる」とこたえた児童が89.2%で、スクールプランの目標をわずかに下回った。実際に気温が下がるにつれて相手の顔を見てあいさつができなかったり、声が小さくなってしまったりする児童が増えたように感じる。これまでの取り組みに加え、委員会活動や学級活動を通して児童らに元気な挨拶の意義を考えさせることが大切なのではないかと考える。	明るく元気なあいさつができるような手立てを児童と考える。さまざまな教育活動の中で気持ちのよいあいさつをする意味や効果について話し合うことで、誰に対しても自分からあいさつをしようとする態度を育む。また、SST活動や委員会活動で、あいさつをゲーム化して楽しく取り組むことをきっかけに、元気なあいさつをするのよさに気づくことができるようにする。教職員が手本となって、明るいあいさつをする。
	保護者	②わが子は、家族や地域の人に、元気よくあいさつをすることができる。	31.7	55.6	9.5	3.2	30.5	52.4	14.6	2.4		
	教職員	②自分は、児童が場に合ったあいさつができるよう適切に指導している。	83.3	16.7	0.0	0.0	90.9	9.1	0.0	0.0		
豊かな心	児童	③友達の良いところをみつれたりやさしくしたりすることができる。	81.4	15.7	1.0	2.0	76.5	19.6	2.9	1.0	前後期ともに「あてはまる」と答えた児童が90%をこえ、スクールプランの目標を達成できている。毎週木曜日のSST活動に、新聞記事の感想を異学年で交流したこと、他者の意見に共感したり、尊重したりする経験を多く持つことができたことが結果につながっていると感じる。	帰りの会や学活で友達の良いところを発表して、自己肯定感を高める取り組みをしている。今後は、友達よさを発表するだけでなく、うれしかったことを「ありがとう」で伝えるなど、友達の良いところを見つける視点を増やすような内容に工夫する。
	保護者	③わが子は、誰とでも優しく関わり、集団の中で良好に生活している。	38.1	55.6	6.3	0.0	42.7	51.2	6.1	0.0		
確かな学力	児童	④友達の前で、自分の考えや意見を発表したり書いたりすることができる。	70.6	17.6	8.8	2.9	58.8	28.4	10.8	2.0	スクールプランの「自分の考えや思いを表現することができる児童」90%以上には達しなかったが、今年度、縦割り班で自分の興味をもった記事を紹介したり感想を伝えたりする「ぼかぼか集会」を実施したこと、記事を読んだり友達の意見を聞いたりしたときの驚きや感動を伝え合う姿が多く見られた。「あてはまる」と答えた保護者が91.5%と前期と比べて増えていることから、保護者もその良い変化を実感しているように思う。ICT機器の活用については、タブレットを使った他者参照を取り入れたことで、児童は学習に主体的に取り組むことができ、理解がより深まった。	次年度も、SST等の活動をクラスや縦割りで行ったり、授業の中でペアやトリオ、グループ活動を取り入れて自分の考えや思いをしっかりと表現できる児童の育成を図っていききたい。特に、国語科を中心に、どの児童も参加できたり、参加しなくなったりする活動を授業の導入（準備運動）に組み入れて学習意欲を高め、ペアやグループ活動によって多くの発言機会をもち、授業後に満足感が得られるようにしていきたい。
	保護者	④わが子は、自分の思いや考えを自分なりにまとめて家族や友だち、先生等に伝えようとするところがある。	25.4	60.3	14.3	0.0	36.6	54.9	6.1	2.4		
	教職員	④自分は、ICT機器等を活用し、児童が自己の考えを広げ深めるような授業を意識的に行っている。	41.7	50.0	8.3	0.0	54.5	36.4	9.1	0.0		
確かな学力	児童	⑤毎日の授業内容がよくわかる。	74.5	19.6	3.9	2.0	70.6	25.5	2.9	1.0	授業の内容がわかると答えた児童が96.1%だったことから、スクールプランを達成することができた。「あてはまる」と答えた保護者が89%と、前期と比べて増えていることから、保護者もそれを認めていることが分かる。授業のめあてをはっきりさせ、最後までまとめを丁寧に行ったことの結果が出ている。また、校内研を行い、教員同士でアドバイスし合いながら教員の授業力向上に努めたことも一因であると考えている。	次年度も、授業のめあてをはっきりさせ、最後のまとめまで丁寧に学習活動に取り組み、「わかる」授業づくりをしていきたい。また、個別指導も充実させ、スモールステップで課題に取り組ませていきたい。教員で授業を見合ったり、効果的な取り組み例を共有したりすることで、授業のスキルアップを図っていききたい。
	保護者	⑤わが子は、授業がわかると言っている。	47.6	38.1	12.7	1.6	45.1	43.9	7.3	3.7		
確かな学力	児童	⑥本を読むことが好きである。	58.8	21.6	13.7	5.9	59.8	17.6	15.7	6.9	本を読むことが好きな児童が前期と比べて若干減った。学校では、教員が積極的に読書を勧め、学級文庫を児童の手に取りやすい場所に並べ、家庭読書の日を設けたり、図書委員会による読書啓発活動も十分に行ってきた。保護者の「あてはまる」と回答した保護者が50%とやや低い数値であることや、習い事等で読書をする時間が無い児童もいると考えられることから、家庭に向けて読書を促す必要性があると感じる。	読書は、自分の興味関心を広げるだけでなく、心を豊かにする活動であることから、PTAとも連携しながら、家庭での読書を促していきたい。また次年度も、図書委員会の企画をとらして、楽しみながらいろいろなジャンルの本を読めるようにしていきたい。図書室に足を運びたいような取り組みを今後も継続していきたい。
	保護者	⑥家庭でも読書の機会を設けている。	17.5	39.7	33.3	9.5	18.3	31.7	42.7	7.3		
	教職員	⑥自分は、読書活動に十分親しむように児童に促している。	58.3	41.7	0.0	0.0	54.5	45.5	0.0	0.0		

		1	2	3	4	1	2	3	4	成果と課題	対応策・向上策	
健やかな身体	児童	⑦東 っ子タイムや昼休みに、すすんでマラソンや運動に取り組んでいる。	55.9	30.4	8.8	4.9	64.7	21.6	11.8	2.0	<p>①前後期ともに、児童の回答が1・2合わせて85%以上となっており、多くの児童が意欲的に取り組んでいることが分かる。</p> <p>②1・2合わせた割合は前後期同じだが、後期の方が1の割合が増えている。この結果から、児童がより意欲的に取り組んだということがうかがえる。</p> <p>③前期と比較して、後期は保護者が3・4と回答した割合が増えた。これは、季節的に運動している姿を見る機会が減ったからではないだろうか。児童の回答と比較すると、保護者と児童の認識に差異がみられる。</p> <p>④東っ子マラソンの時間が長く、次の授業開始に支障が出ることがあったため、時間の短縮を行った。</p> <p>⑤スクールプランでは、「業間運動やなわとびを頑張る児童90%以上」となっているため、数値目標に届いていない。</p>	<p>①②後期は、長縄を縦割り班で行い、記録を目指すなど力を合わせて目標を達成する内容があったことが結果の向上につながったと推測する。よって、児童同士の協力や関わり合いを取り入れた活動も考えていく。</p> <p>③前期の1・2の割合を上げるための方策として、業間マラソンの結果を生かして学年ごとに記録をするなど、他者と協力できるような取り組みを考える。</p> <p>④業間活動や体育など運動の様子を、今後導入される学校HP等で保護者に周知することが考えられる。</p> <p>⑤後期では、児童の肯定的な回答の割合が増えているため、今後も継続的に活動を行う。</p>
	保護者	⑦わが子は、体を動かすことが好きで、すすんで運動しようとしている。	50.8	23.8	17.5	7.9	50.0	20.7	22.0	7.3		
	教職員	⑦自分は、業間運動で体力が向上するよう、児童に指導、支援した。	58.3	41.7	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0		
健やかな身体	児童	⑧早寝、早起き、朝ごはんは気をつけてすごすことができる。	63.7	30.4	2.9	2.9	72.5	18.6	5.9	2.9	<p>①児童保護者ともに、1・2への回答が90%を超えており、スクールプランの「規則正しい生活習慣が身についていると感じる児童・保護者90%以上」の数値目標と一致している。また、後期には児童保護者ともに1と回答した割合が増えた。</p> <p>②教員が1と回答した割合が増えていることから、教員の積極的な働きかけは有効であると考えられる。</p>	<p>①チャレンジ週間を継続して行った成果が表れてきたと考える。また、教員が1と回答した割合が増えていることから、教員の積極的な働きかけは有効であると考えられる。今後も学校教育全体を通して積極的に働きかけていく。</p>
	保護者	⑧わが子には、規則正しい生活習慣（早寝早起き・食習慣など）を意識させている。	47.6	46.0	6.3	0.0	52.4	37.8	9.8	0.0		
	教職員	⑧自分は、児童に早寝・早起き・朝ごはんの指導を通して、規則正しい生活習慣の定着を図った。	66.7	33.3	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0		
健やかな身体	児童	⑨テレビ、ゲーム、SNS利用について、親子で話し合ったルールを守っている。	69.6	23.5	3.9	2.9	71.6	21.6	3.9	2.9	<p>①前期に比べて、保護者が1と回答した割合が増えた。東っ子スマートルールの設定やチャレンジ週間の継続的な取り組み、Home&Schoolでのインターネット安全・安心通信の配信などから、保護者が子どもの様子を定期的に確認する機会が増えたからではないだろうか。</p> <p>②スクールプランでは、「『東っ子スマートルール』で決めたルールを守っていると感じる保護者90%以上」となっているが、回答は1・2で前期75%・後期78%となっている。</p> <p>③休業前に各学年のお便り等で家庭でのルール設定を書く欄を設けて、休業中の家庭生活について意識できるようにした。</p>	<p>①引き続き、継続していくことで児童保護者との連携を図っていく。</p> <p>②チャレンジ週間を継続して行った成果が表れてきたと考える。また、教員が1と回答した割合が増えていることから、教員の積極的な働きかけは有効であると考えられる。今後も学校教育全体を通して積極的に働きかけていく。</p> <p>③④ルールを守ることが目的になっている可能性があるため、メディアリテラシーの啓発や、何のためのルール作りなのかを意識させる。</p> <p>③今後も、全校で同じように取り組んでいくことで、児童保護者への啓蒙活動になるようにする。</p>
	保護者	⑩わが子は、テレビ・ゲーム・SNS利用等について、家庭でルールを決めて守っている(守ろうとしている)。	22.2	52.4	22.2	3.2	31.7	46.3	20.7	1.2		
	教職員	⑩自分は、テレビ、ゲーム、SNS利用等について、家庭でルールを話し合うよう児童に促した。	58.3	41.7	0.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0		
健やかな身体	教職員	⑨自分は、日常生活や防災訓練などで、安全に対する指導を児童に行った。	75.0	25.0	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0	<p>①すべての教職員が安全指導を適切に行っていることが分かる。後期の方が1と回答した割合が増えていることから、教員の安全意識が高まっていることが分かる。</p>	<p>①緊急時対応の職員研修を適宜行っていく。繰り返し行っていく。</p> <p>①今後も、職員会議や終礼、児童理解などを含めて教員間での情報共有や連携を行っていく。</p>
信頼される学校	児童	⑩地域の学習やあわら市の行事に参加して、ふるさとやあわら市のことが好きと感じる。	76.5	16.7	4.9	2.0	68.6	23.5	3.9	3.9	<p>児童は、「ふるさとCM作り」や「ふるさと再発見ウォーク」などで、地域についての学習をしている。今年も「かりん祭り」や「坪江公民館祭り」など多数の児童が参加している。しかし、熊坂長範祭りがなかったり、地区毎の行事が減ったりして、保護者の中には、「行事に参加したくても参加できない。」と考える人もいる。</p>	<p>各学年での「あわら市」や「福井県」のふるさと学習に関する学習を継続してきている。学習の成果を新聞にまもめたり、あわらのたからの動画に使ったりしているが、10月に行われた「地域再発見ウォーク」の際に募集したボランティアに参加してくださる保護者はいなかった。来年度は、保護者向けへの発信を工夫していく必要がある。</p>
	保護者	⑪わが子は、地域の行事等に積極的に参加し、ふるさとに愛着を持っていると感じる。	22.2	52.4	20.6	4.8	26.8	46.3	20.7	6.1		
	教職員	⑫自分は、地域の行事や地域での体験活動をする事の大切さを児童に指導している。	50.0	41.7	8.3	0.0	45.5	54.5	0.0	0.0		
信頼される学校	保護者	⑨学校は、学年通信や学校通信、Home&School、ホームページなどを通じて教育活動内容を適切に発信している。	60.3	33.3	6.3	0.0	51.2	37.8	7.3	3.7	<p>保護者は、学校が発信する教育活動内容について適切に発信していると感じている割合が1・2を合わせて前期よりも後期は少し減っている。後期はペーパーレス化を推進し、Home&Schoolでの配信を多くした。市や他団体から配信依頼の物も増え、Home&Schoolでの配信を見ていない保護者もいる。学校からのお知らせを見ていただくための工夫が必要。</p>	<p>来年度は、Home&Schoolでの配信と合わせて、ホームページの更新も適切に行わなければいけない。学年だよりのペーパーレス化に合わせて、ホームページの情報発信に取り組む必要がある。</p>
	教職員	⑩自分は、学校・学年だよりのHome&School、ホームページなどで情報を発信し、情報公開に努めた。	75.0	25.0	0.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0		
信頼される学校	教職員	③自分は、関係機関と連携をとったり、校内で情報を共有したりして、課題を抱える児童への支援を行っている。	83.3	16.7	0.0	0.0	72.2	27.3	0.0	0.0	<p>必要と思われる児童やその保護者に対して、関係機関に丁寧に伝えている。</p>	<p>これからも、必要と思われる児童や保護者に対して、教職員が連携して関係機関に丁寧に伝えていく。</p>